



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：353千円

## Discover Classic Cars ～アナログデザインの精髓に学ぶ～

### 目的・趣旨

自動車の誕生から250年経った現在、EVや自動運転により100年に一度の変革期と言われている。そんな今こそアナログデザインの精髓とも言えるクラシックカー約60台を展示、再評価する事でデザインと文化への理解を深める。

### 日時・場所

令和4年11月13日  
静岡文化芸術大学 構内

### 体制

(実施代表者) デザイン学部 デザイン学科 教授 服部 守悦  
文化政策学部 芸術文化学科 教授 立入 正之

### 共催・後援等

(共催) クラブ・アルピオン

### 内容

大学構内に約60台のクラシックカーを展示し、各車の歴史やデザインについて参加者と情報交換を行った。参加車両は1950年代～70年代のイギリス車を中心に、イタリア、ドイツ、フランス、スウェーデン、ポーランド、日本と幅広く集まった。開会式後、プロカメラマンによる自動車撮影教室を開催、その後参加車両紹介へと移った。午前中は参加者と学生によるフォトコンテストを行い、昼休みに審査の上、入賞者を決定した。午後からはトヨタ博物館より講師を招き「チンタリア202クーペのレストア記録」と題し基調講演を行った。講演終了後、フォトコンテスト表彰式と閉会式を行い、歓談の後解散となった。



### 結果・成果

自動車は今、EVや自動運転等により100年に一度の変革期と言われている。今回、アナログデザインの精髓を伝えるクラシックカーを見つめ直し再評価する事で、デザインはもちろん、背景にある歴史、文化への理解を深めることができた。特にデザイン面では、国や時代の違いによる個性的なエクステリアデザイン、工芸品のようなインテリアデザイン、木や革や金属などの異なる素材を組み合わせたCMFデザインが印象的であった。両学部の学生合わせて14名が、「地域連携演習」やアルバイトという形で参加。その他見学に訪れた学生達も含め、本物に触れる貴重な機会となった。また二輪四輪メーカーへ就職した卒業生も何人来訪し、在校生との交流を深めた。トヨタ博物館学芸員の方による基調講演は、ただのレストア記録だけではなく、作業に当たりその車のルーツやストーリーまで調査したという内容で、大変参考となった。浜松地区ではこうしたイベントは珍しく、一般入場者も数多く見られた。総合演習室に休憩スペースを作り、LPレコードの試聴コーナーを作ったが、展示車との相乗効果があり、好評であった。

